

1. 「重点評価項目」について

【生徒アンケートより】

○評価が高かった項目

1. 本校の「探究系列」「スポーツ科学系列」「家庭科学系列」「会計ビジネス系列」「情報システム系列」5系列の充実・発展に向けた取り組みを推進している。
2. 学校行事や生徒会行事では、生徒が主体的に取り組めるよう工夫している。

●評価が低かった項目

1. 読書に親しみ、読書する習慣を身につけるよう教科指導を通して工夫を凝らした指導を行っている。
2. 読書や本についての広報活動や委員会活動を積極的に行い、図書館の積極的活用と利用拡大に努めている。

【保護者アンケートより】

○評価が高かった項目

1. 早い時期から系統的な進路指導・ガイダンスの充実に努め、より高い目標に向かうチャレンジ精神の育成に努めている。
2. 映画鑑賞や研修会など、年間を通した計画を立て、人権意識を高める取組を行っている。
3. 本校の「探究系列」「スポーツ科学系列」「家庭科学系列」「会計ビジネス系列」「情報システム系列」の5系列の充実・発展に向けた取り組みを推進している。

●評価が低かった項目

1. 読書に親しみ、読書する習慣を身につけるよう教科指導を通して工夫を凝らした指導を行っている。
2. 読書や本についての広報活動や委員会活動を積極的に行い、図書館の積極的活用と利用拡大に努めている。

【教職員アンケートより】

○評価が高かった項目

1. 進路選択のための情報提供を行うとともに、小論文指導・面接指導の充実に努めている。
2. 個々の生徒の学力や進路希望に応じ、補習授業の実施や各種検定試験の受験を奨励するなどきめ細かい指導を行っている。

●評価が低かった項目

1. 読書に親しみ、読書する習慣を身につけるよう教科指導を通して工夫を凝らした指導を行っている。
2. 毎日の清掃活動を徹底し、ゴミの分別・減量、節電等省エネなど環境美化活動を推進している。

2. 生徒による評価について

【生徒アンケートより】

○学校生活の充実について

全体の9割近い生徒が、毎日の学校生活において授業や部活動や学校行事に精一杯取り組んでいると答えている。一方で、そうは思っていない生徒の要因の把握に努め、対処するための取組が必要である。

●家庭での予習・復習について

全体の6割近くの生徒が復習や予習を行っている。しかし、残りの生徒は「全くしていない」と回答しており、週末課題など具体的な方法を通して、予習・復習の大切さや必要性について、担任や教科担当者から十分に伝える必要がある。

●授業についての満足度について

全体の7割近くの生徒が「満足」、「まあまあ満足」と回答している。しかし満足度をより高めるために、授業改善の取組が一層必要である。

○授業に対する集中度合いについて

全体の8割あまりの生徒が肯定的な回答をしている。一方で授業に集中できていない生徒もおり、各教科担当者が魅力ある授業展開に取り組む必要がある。

●わかりやすく丁寧な授業について

全体のおよそ6割の生徒がわかりやすく丁寧であると感じている。一方で残りの生徒は、わかりにくく丁寧でないと感じている。各教科担当者が授業展開について今一度振り返り、わかりにくい原因を追究し、丁寧な授業を心がける必要がある。

●検定や資格取得のための受験回数について

全体の半数以上の生徒が1回以上受験をしており、目的意識がみられる。より多くの生徒が明確な目標を持ち、チャレンジする意義を伝えるようにする必要がある。

○最も得意な教科・科目について

総合学科における各系列の特色ある科目を中心に得意と感じている生徒が多く、特に国語、数学、保健体育、英語の教科を得意としている生徒が多い。

○伸ばしたい学習の力について

思考力や判断力を身につけたい生徒が最も多く、次いで読解力、計算力、言語力の順に多かった。

○アクティブラーニングについて

全体の8割近い生徒がアクティブラーニング形式の授業が「とても良い」「良い」と答えている。生徒のニーズに応じた授業を取り入れることも大切であると思われる。